

「秋田の風力発電：持続可能な未来に向けて」ご案内

主催：日本リアルオプション学会 (JAROS)

会場：秋田大学 国際資源学部1号館 S302 (Zoom参加も可能)

日付：2023年 11月11日 (土)

参加申込先：学会ホームページ <http://realopn.jp/> からお申込み (無料) をお願いします

司会：高嶋 隆太 東京理科大学 理工学部経営工学科 教授

基調講演

13:30 - 14:20 『風力発電と地域創生～今あきたで何が起きているか～』

佐藤 裕之 株式会社ウエンティ・ジャパン 代表取締役社長

秋田は、かねてから陸上風力発電が盛んな地域であったが、東日本大震災後その勢いは加速。陸上風力に加えて港湾内洋上風力発電も始まり、秋田県の風力発電の規模は日本一となっている。それに続いて、再エネ海域利用法の下、県内2海域の事業者が決まり運転開始に向け準備が進んでおり、さらに新たに2つの海域も公募手続きの最中にある。かかる秋田での風力発電の隆盛と、風力発電による地域創生への挑戦を紹介する。

講演2

14:20 - 15:00 『秋田県における再生可能エネルギーの導入拡大と関連産業集積拠点の形成に向けて』

三浦 均 秋田県産業労働部 クリーンエネルギー産業振興課 課長

国内最大級の新エネルギー供給基地と関連産業振興による経済効果の最大化に向け、洋上風力・地熱発電等の導入拡大や再エネ発電設備等の建設工事、部品製造、運転・保守への県内企業の参入拡大促進、再エネ由来電力の地域での活用に関する取り組みを紹介する。

講演3

15:05 - 15:45 『脱炭素化と地域活性化の両立に向けた秋田のエネルギーフロー分析』

古林 敬顕 秋田大学大学院理工学研究科 共同サステナブル工学専攻 准教授

秋田県は豊富な再生可能エネルギーを有し、秋田港、能代港に導入された洋上風力発電に加えて、再エネ海域法に基づいて導入が決まった洋上風力発電が導入されれば、再エネ由来の発電量は県内の電力需要量を超えることが予想される。本研究では、県内の再エネを県内で消費と地域活性化を両立するために求められるエネルギーシステムについて概説する。

講演4

15:45 - 16:25 『再生可能エネルギー電源の連系拡大に向けた当社の取り組みや電力系統の状況等について』

福田 仁 東北電力ネットワーク株式会社 秋田支社 副支社長

太陽光や風力発電等の適地が多い東北6県および新潟県では、2012年に再生可能エネルギーの固定価格買取制度が導入されて以降、これら電源の連系が急速に拡大した。一方で、連系拡大にともない、需給バランス面の課題や送電容量面の課題も顕在化してきている。本講演では、政府の目標である2050年カーボンニュートラルの実現に向けた当社の連系拡大に向けた取り組みや電力系統の状況等について説明する。

パネルディスカッション

16:30 - 17:15 モデレーター：服部 徹 一般財団法人電力中央研究所社会経済研究所 副所長

パネラー：佐藤 裕之 株式会社ウエンティ・ジャパン 代表取締役社長

三浦 均 秋田県産業労働部 クリーンエネルギー産業振興課 課長

古林 敬顕 秋田大学大学院理工学研究科 共同サステナブル工学専攻 准教授

福田 仁 東北電力ネットワーク株式会社 秋田支社 副支社長